

銀齡だより

平成8年10月(100号記念)

(社)町田市シルバー人材センター

東京都町田市森野1-1-15

TEL (23)2147~8

「銀齡だより」100号記念

町田シルバー応援歌

作曲 波多野喜美子

The image shows a musical score for the song 'Town of Maida Silver Support Song'. The score is written on a grand staff with treble and bass clefs. The lyrics are written below the notes. In the center of the page, there is a photograph of a group of approximately 15 people, mostly elderly, holding green songbooks and smiling. They appear to be a choir or a group of members performing the song. The background of the photo is the musical score.

町田シルバー応援歌

作詞 花岡哲夫

- 一 第二の人生 はつらつと
ふれあい求め こんにちわ
ドドンと行こう 両手を振って
町田シルバー 会員の
力を合わせ 今日もまた
笑顔忘れず ソレ行こう
- 二 暑さ寒さを 吹きとばし
生涯現役 合い言葉
ドドンと行こう 足音高かく
町田シルバー 会員の
優しさいっぱい 明日もまた
希望を抱き ソレ行こう
- 三 長い年月 越えた先
幸せ皆に 待っている
ドドンと行こう ファイトを燃やし
町田シルバー 会員の
誇りを胸に いつまでも
心いきいき ソレ行こう



「銀齢だより」 一〇〇号に寄せる

会長 林 清美

「銀齢だより」が、この秋に一〇〇号になります」と聞いて何だか、遠い、懐かしい想いに慕っております。

「銀齢だより」という名前が決まったのが昭和56年1月頃でした。

その年2月に第1号をようやく発行しました。

会員の親睦をはかる手だてとして、直ぐに出来ることはないかということではじめました。従って誌をはじめました。従って始めは機関紙の性格などという使命感もはっきりしていなかったと思います。

数回の発行後、定期総会に要望が出て、慌てて検討して現在の機関紙としての形態が整ったのだと記憶しています。

そうした思いつきからの着手であり、事務局の片手間の仕事としての存在でした。

そのうちに、用語や編集のあり方に注文が出るようになりました。

しかし、発行の条件や経費など内輪の話をしなすと、「それではお手伝いしません」という会員はありませんでした。

この辺が現在の皆さんの感覚と大きく違うと思います。

理事会に、広報部会が出来「銀齢だより」も隔月にきちんと発行されるのころとは隔世の感があります。

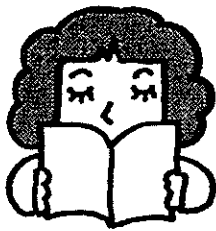
ここまで育てた、各位の弛まぬ努力には、衷心から感謝し、有難い思いです。

シルバーのような団体の機関紙として風格のある編集内容を維持し、しかも、会員に親しみをもつものにするのは容易なことではないと感じます。

会員も倍以上になり、市民にも読んで貰いたい会誌であってほしいと思います。

シルバー事業のP・Rをする機能を果たす大切な使命をどのようにして発掘するか、関係各位の創意に期待するのみならず、会員各位のアイデアをどしどし取り入れる道もあります。

そうして、会員が発行が待たれる会誌に育てて頂きたいと願っています。



「銀齡だより」100号 発行によせて

銀齡だより一〇〇号発行にあたり一号より現在までをふりかえって見ましよう。創刊号は昭和五十六年二月に発行されB5版10頁で、内容は会長発刊のあいさつ、常務の一言、職員の紹介、事業の実施状況、会員の雑感、理事会の報告等数多くの記事でスタートしています。二号以降はB4版両面刷り一枚で年間七回から八回発行されて居ります。内容は定期総会の報告、業務実績、事務局だより、会員の入退会、理事及び各役員の紹介、会員の随想、理事会の報告等が記されて居ります。二十九号三十号は事業団発足五周年記念の事業団祭りがありましたので、B5版6頁に増ページして会員の感想文が掲載してあります。二十九号から三十九号までは昭和六十年一ヶ年で発行してあります。四十号は昭和六十一年新年号

にあたりますので会長副会長のあいさつ、初詣の場所の記事、安全特集、会員のこえ等がのせてあります。以後新しく掲載されたものは、会員と家族のレクリエーションが始まりました。これは回を重ねて今回が八回目になります。全世界対象の全戸配布がシルバー会員で行われています。四十六号は会員の盆栽展、四十八号では地域懇談会の様子が載っています。五十号は昭和六十三年新年号で表紙をカラーで辰年の会員さんが集合して居ります。五十六号よりは年号も平成となりました。事業団も設立十周年を迎えますので式典、会員のかくし芸大会、就業経歴発表会、研修バス旅行等の記念行事が行われました。平成二年には高齢者事業団の名称が社団法人町田市シルバー人材センターになり。平成四年には事務所建替えのため移転仮住いしました。七十四号にはこんにちわみなさん、安全委員会主催の

健康ハイキング、八十号では会員の親睦を深めるためのサークル設置要領が決まりました。又市制三十五周年記念表彰もありました。八十二号では広報部でザ・フェスタ栄通りのパレードに参加しています。十月には新しい事務所が出来上がりましたので、会員と家族の作品展が開催されました。平成六年九十一号では町田市民を対象に、シルバーカレッジが開講されました。平成七年九十三号では、わくわくプラザデイサービスが開所されており。九十四号に九月総会のアトラクションとして、演劇同好会が「カルメン」を上演して皆様の大人気を得ています。シルバー連まちなどもパレードや町内の祭礼等に出演してがんばっています。その他の同好会もそれぞれ活躍中です。まだこの外たくさんの記事がございますが、紙面の都合上簡単に記さして戴きました。今後共「銀齡だより」がシルバー人材センターと共

「町田シルバー応援歌」

に末永く歩んで行くことを願っています。(理事・水島 政一)

「銀齡だより」100号発刊の記念に、会員の花岡哲夫さんから「町田シルバー応援歌」の歌詞がとどきました。

素晴らしい歌詞に感動した編集担当から、作曲してみたいとの話がありましたので平成6年3月の定期総会の際、歌の指導をしていただいた、森野で音楽教室を開いていらっしやる、波多野喜美子先生にお願いをしたところ、ボランティアでお引受けくださった出来あがったのが、表紙に掲載しました「応援歌」です。

覚えやすく、親しみのもてる歌で、11月16日(土)に開催が決まりました、室内レクリエーションの会場で、発表すると同時に、皆さんにご指導することになりましたので、室内レクリエーションに参加され、この「応援歌」を覚えてください。

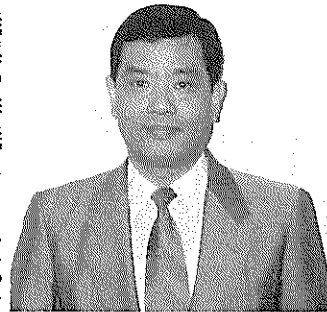
平成8年9月期

定期総会開催

9月27日 町田市民ホール



去る9月27日(金)9月期の定期総会が、町田市民ホールに於て、約五〇〇名の会員が参集して開催されました。



(新任の岡部理事)

議案の審議にさきだつて、林 会長から、シルバー人材センターの運営について、就業体制の改善、即ち、ローテイション化の推進準備、地域懇談会の活用による就業のあり方の検討の要請をしたあと10月から発足する予定のシルバー人材センター連合への期待、更には個人情報に関しての重要性についての内容のあいさつを申し述べました。つづいて、名誉会長である寺田町田市長・渋谷市議会議長のお二方から、シルバー人

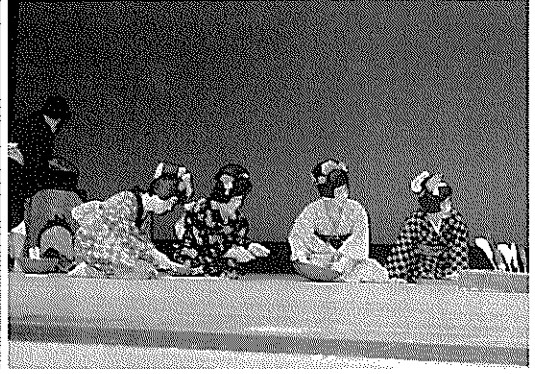
材センターに対する期待をこめてのおはなしをいただきました。

総会議長団には、いずれも相原地域班長の、野呂善勝さんと、吉沢泰子さんが選出され、5議案について審議をした結果、原案どおり全部承認されました。(議事の内容については、議案書を参照してください)

第5号議案で承認されました、岡部 優理事の自己紹介をもって議事は終了しました。

このあと『わくわく劇団』によるアトラクションが上演されましたが、日本民話から「狐ペラ」をとりあげて、リーダーの杉山さんが脚色したものを、この一年間しごとの合間に練習を重ね、第2回公演ともなつて自信をつけた団員が、見事に演じました。

観客から、投げ銭が投げ入れられる程の好評で、午後4時過ぎに無事定期総会は終了しました。



『走馬灯の如く』

顧みると、昭和55年3月6日に設立して以来、16年と7ヶ月の歳月が経った。

名称を公募した団の広報紙「銀齡」も早いもので創刊100号を迎えた。

この間に、幾多の会員が活躍されたことだろう！

明治、大正、そして昭和生まれの三世代別の会員の氣質について述べてみたい。

昭和62年頃迄は、明治生まれの会員が学校管理、清掃等の業務に携っていた。生真面目であるが、なかなか気骨のある人たちであった。

同時期、大正一桁生まれの所謂、戦前派の人たちが活躍していた。

先日、喜寿を迎えたある会員とお会いした。

設立して最初に植木の仕事をした人である。彼は、ある一部上場の会社で部長職の地位に就いていた。部下に指示を出す立場の人間で、どちら

かというと、人に頭を下げるのが苦手な人間である。その彼が「忘れもしません、あの時の感動が……」と言われた。それは、植木の仕事が終って、お客さんから「いくらですか」と聞かれて、事務局から言われた通り、「町の植木屋さんの六掛けくらいです」と言って、日額7千五百円を貰った。その時、緊張の為か、手が震え暫く止まらなかつたそうです。自分が汗水流し貰ったお金は、サラリーマン生活では得られなかつた喜びと同時に気恥かしかつた思いとが複雑に入り交じっていたとの事でした。

この世代の人たちは、ボランテニア活動などで社会に貢献するとか、福祉の恩恵を受けるとかが苦手な「世間の目」を気にする人たちが多い。

大正末から昭和一桁生まれの人たちは「世間の目」世間の体を気にしつつも、自己主張ができる。古風な面と現代的な面を合わせ持った器用人間が多い。自宅近くの就業を嫌

らい、人に知られないなら、家事援助等の社会福祉活動の仕事や、清掃、除草等屋外の仕事に従事してくれる。

また、音楽、社交ダンス、民踊、登山、旅行等多趣味人間が多い。

ある薬品会社に勤めていた方であるが、彼は全国の都市を車で巡りながら、オカリナ（土笛）を持参し、仕事の合間に練習し、今では、童謡から歌謡曲まで何でもこなせる。

昨春秋、忠生市民センターで「親子で楽しむ音楽会」と題して演奏会を催した。御令嬢のピアノの伴奏で、ホールに澄んだオカリナの音色は今でも忘れない。

彼は今、音楽同好会を作るべく仲間を募集中である。

因みに、昭和生まれの常務も音楽大好き人間の一人である。

昭和二桁の人たちも入会してきたこの頃であるが、まだどんな氣質なのか、わからない、今言えることは、団塊の

世代、つまり私たちの世代のことなら少しは判る。

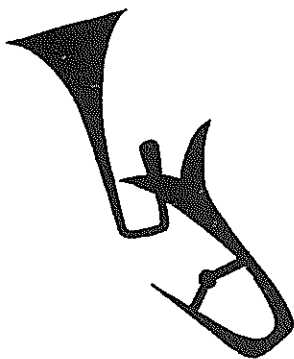
「義務と権利」を使い分ける集団で群れることが好きな人たちである。

思えば、戦前、戦中派の人たちは、どちらかと言うと、我こそは的なる所謂「個」であったが、戦後生まれの団塊の世代は、皆んなで渡れば恐ろしくない所謂「群」れる世代である。

10年後、これら団塊の世代の人たちが入会して来る。

銀齡が200号を迎えた時、私は、この世代の人たちの事をどんな言葉で表現しているのだろう。

(主任・高須 政則)



「銀齡だより」 もじり〇〇号!

今回で一〇〇号を迎えるとか、おめでとうございます。年数にして何年かな?と、足りない頭で考えてみました。人間で云ったら十六才かしら。エッ!、そんなに永く続いているのかと、一寸とジントくるものがありました。私は、会員になって、約10年ですが、入会前は、毎日新宿まで朝早く通ってました。朝の早さがつらくなり退職してしまつたのですが、夫の体調がよくならないために遊んでいられず、どうしようかと思つていたとき、シルバー人材センターのあることを聞き尋ねてみました。

「今までどんなお仕事をされてきましたか」と聞かれて「掃除をしていました」と云いましたところ、「働く気持ちがあつて、仕事をえりごのみしなければありますよ」と云われ、いま、学校のトイレ掃除を担当しています。第二の人生を楽しく過ごさせてもらえて、とても嬉しく思つています。仕事があつて働ける喜び、元氣だから出来る喜び、健康の有難さを、しみじみと感じている私です。仕事にも愛着を覚え、今日はイヤだとか、今日はツライと思つたことはありません。残り少くない人生を楽しく生きられることは、最高の幸福かもしれないと思うこの頃です。

「銀齡だより」も、これくらいいつまでも続いて、会員のための機関紙でありますように念じていたいと思います。(清掃グループ・玉木 はな)

『夢みる亭主』

「政治家になるぞ!!」と宣言した亭主。病院みたいな午後六時の夕食。白湯みたいなもんだと言つて飲む薄い晩酌(焼酎二湯八)。それを一杯飲み終らないうちに言い始めた。

政治家になる。先ず軽自動車を買つてくれ。スピーカーをつけて五十万円ぐらいかかるかな。当選したら倍返しするからさ、ついでに演説の原稿も頼むよ。全国のシルバー人材センターを強い味方にしよう。でも最初は町田市シルバー人材センターの会員にお願いしよう。でも町田市でいつもトップ当選する人がいるぞ。会員の支持者も多いだろうな。それでは最初は理事長を目指すか。三杯目の白湯も効いてきた。八時就寝時間だ。少なくなつた歯はチャーンと磨く。怠けの塊りと自負しているがこれだけは守る。

就寝。金バッジで赤じゅうたんを歩く夢か、次の夢はカーネギーホールでの指揮者になつているのか、外国航路の船長姿で、紺碧の大海原をつき進んでいるのかも知れない。(事務グループ・江良 美都江)

『デイサービス援助者として』

境川の流れに添って四季折々の変化は三階デイサービス会場から見る素晴らしい景観です。交通に便利な市内とは思えない眺めです。川辺には水鳥も多く時には利用者と岸辺で鳥を満喫しています。在宅で身体に不自由があるとか、独り暮らしの高齢者を対象に興味や体力の維持活動、おしゃべり、ゲーム等日課としています。利用者の皆様は人生体験の中で、豊富な経験や知識を私達に与えてくれます。あるとき戦時中女子挺身隊で努力に努力を重ねたあの頃の私達は……と、目を輝かして話を聞かせて下さいました。とても美しく感動しました。独り暮らしの男性は感激に目をうるませ一瞬沈想、その後笑顔がこぼれ囲りの人を勇気づけました。明るくする笑顔こそ自己免疫力を高め、健康を保つ秘けつです。私達援助者は、軽い

物忘れ性疾患のある利用者の人格を尊重し、訴えを無視することなく十分に聞く姿勢を持ち優しく対応する、ゆとりのある態度で明るく行動すること等話し合っています。安心して一日過ごせる心の通った場所になるよう心掛けています。利用者の笑顔が帰ってくる時、それはさわやかで疲れのとれるひとときです。

人生八十年時代を迎え、ほとんどの人が長い老年期を過ごすようになってきました。長い老後を充実したものにするために健康が最大のポイントになります。年をとると誰でも老化によって、細胞や骨、心臓、肺など体のさまざまな部分の機能が徐々に衰えてきます。老化は誰にでも遅かれ早かれ訪れる現象です。しかし老化が実年齢に平行して起こるわけではない、適当な運動を行なっているお年寄りの場合、運動が老化の進みを遅らせ運動不足からくるさまざまな病気の予防になるうえ、

ストレスの解消にもなる。

精神的にも若々しく、ハリを与えます。高齢者の方々が地域の中で生き生きと暮らせるためにも、会員の皆様が生涯現役として、今後とも大いに活躍され、シルバー人材センターの益々の発展のために、私は努力したいと思います。(デイサービス・田中 ミネ)



『開放教室と私』

私は本年一月から南第三小学校開放教室の管理人となりました。今までに半年が過ぎて、仕事の内容にも慣れて隔日に四時間(基準)勤務に従事している。

ところで、私は、「開放教室と私」とのかかわりについて浅からぬ因縁を感じている。私は嘗て『町田市教育史』

の編集にかかわったことがあった。その仕事の中で、「市の教育行財政を分担したとき」、「学校の余裕教室と学校開放」について調べる機会があった。

この調査資料の一として、町田市余裕教室活用検討委員会の中間報告書『町田市における余裕教室の活用のあり方について』(昭61・11)を参照した。この中間答申は、「余裕教室の活用にあたっては、学校関係者と社会教育関係者の相互の協力のもとに慎重な検討が必要である」として、具体的検討に備えるため余裕教室活用モデル校の設置を提言した。この提言をうけて、平成元年に忠生第五小・南第三小が試行にふみきつたのである。この試行に際し、私は両校の関係者から設置にかかわる経緯を聴き、施設・設備の状況について見学したことがあった。

私は今、立場を変えて勤めるようになって、試行の成果がどのように評価されている

のか、気になっていたところ、先ごろ『町田市余裕教室活用計画策定委員会報告書』（平6・7）を見る機会があった。

この中で、開放教室の現状と問題点がまとめられていた。この記載事項の中には意味がよくわからないものもあるが私たちの立場から同感できるものも多かった。報告書は問題点の改善について、「管理運営体制や利用形態、条件整備、条例・規則の見直し等」総合的な検討の必要を述べている。

私はこの報告書以外の資料については見ていないので、この総合的検討がどのようになされているのか、よく分からない。しかし、西暦二千年には小・中学校の普通教室の38%、41%が余裕教室となることが推測されるとき、試行の結果が十分に検討され有意義な学校開放が実現されることを期待したい。私も開放教室にかかわる一員として微力ながら努力する所存である。（管理グループ・福元 幸男）

『こんには

木曾事務所です』

シルバー人材センター木曾事務所は、去る四月一日開設され専任の職員が常勤しております。これはシルバー人材センターが、市の葬祭事業を拡大受託したことに伴う措置であります。

従来シルバー人材センターの会員は、葬祭事業のうち祭壇テントその他の設営、及びこれらの片付けなどの作業部門を担当して参りましたが、今回の拡大受託により、市民からの申込みを受ける受付業務、その他の事務部門も併せて行うこととなりました。

これらの業務のすべてを円滑に継承できるよう、市のベテラン職員が日々懇切に指導に当っておられます。

これと並行して木曾事務所では、全会員が参加して随時研修会を開き、その時その折の当面する問題、その他会員各自が気付いた点などについて

勉強をしております。

最近の主要テーマは「作業要領の統一」と、「リーダーの固定化」でした。

作業要領を統一し均質な仕事をすると共に、シルバーならではのキメ細かな、気配りの行き届いた仕事をするよう心掛けたいと思います。

つぎにリーダーの固定化については、予てよりの懸案でありましたので、すぐに人選いたしました。これにより欠員となっておりました安全対策推進員も選出することができました。早速安全巡回その他の行事に参加しておる処です。

また先日は日野市で行われた、第七ブロック八市の「リーダーの在り方」についての研修会に出席いたしました。

まづ自己紹介と各自の担当業務について、さまざまな意見が述べられました。それにより、いづこも同じ様な問題を抱え、同じ様な苦労をして

親近感を持つことができました。その中で八王子市の公園管理の会員は「来園者から花の名をよく聞かれるので、花の勉強をしている」と云うことでした。担当する職務に常に前向きに取組んでいく心掛けは、立派なことだと思えます。

当方からは、町田市のユニークな事業である「葬祭」について、その生い立ち、沿革、現状などをひと通り説明いたしました。これに対し、つぎつぎと積極的な質問がありました。このことは、この事業に対する関心の深さの表われであると思っております。

こうして話し合いを進めていくにつれ、次第に当初の固さもほぐれ、忌憚のない意見が聞かれるようになりましたが、相憎く終了時間となってしまい、皆さんも心残りだったのではないかと思われる程の盛り上がりでした。

この様に他市の状況を聞き、また当市の事業を紹介するな

どにより、相互に理解を深め、視野を拡げることができたことは、大いに有意義なことであります。

さて私共は、先人たちが幾多の困難を克服して築いた立派な業績を受け継ぐと云う、大切な時期にある訳です。これからも会員が互いに協力し合って、市民の皆さんから喜んで頂ける葬祭事業とするよう努力して行かねばならないと思っております。

「木曾事務所に栄えあれ」
(葬祭グループ・朝田 正康)

『人生の転機』

今から六年ほど前のことでしようか、尾根緑道で恒例の桜祭りがありました。

私どもが住んでいる裏手の方角に、毎年、桜祭りの会場ができるので、昼間から大勢の人々が行き交います。

私も、日ぐれ前のひとときを、桜見物、お店見物と歩いておりました。すると、ある一角に「紙漉きコーナー」の

字が目飛びこんできました。

店じまい寸前のようなでしたが、少しお話しを伺いました。品の良いご婦人方が「よかつたら、センターに来てみませんか。」と言ってパンフレットを下さいました。

牛乳パックで、ハガキができる//私は、非常な感動を覚え、すぐにも習いたいと思いました。

しかし、幼い孫を預かっているの今は無理と思いつつも『シルバー人材センター』という名称に、何か、気持ち がゆれ動き、老人の仲間入り? という淋しさと、恐しさが、すつと頭をよぎり、私には縁のない仕事とその場を立ち去りました。

されど、孫どもは、日に日に成長して行きます。

赤ん坊だった孫娘は、六年生です。私は時代に取り残されていようような焦燥感を覚え、このまま老いるのは、まっぴらごめん……と思いついて昨年の六月にセンターを訪れて

みました。

事務局の方の、和やかな対応に気持ちもほぐれ、念願の紙漉きの仲間にも入れて頂きました。

家事援助の合いまに、技術を習得して行く緊張感は、若さを保つ秘訣のようです。

気持ちにゆとりができて、回りの人々をよく見れば、人生の大きな役割を一つ果たした往年の青年、淑女達は、たくさんあるサークルの中で、腕を磨き、足をきたえ実に、生き生きとして若々しく、まさに熟年の風格がにじみ出ています。

老いの際際に、第二の人生の場を与えられ、大勢の人々と知り合えたことは、私にとっ てすばらしい人生の転機となりました。

ほうとうに感謝の極みです。これからも怪我のないように気を付けて、今という貴重な時間を大切に過ごしたいと思っております。
(家援グループ・正木鈴美)

センターのびいき

○7月24日 七ブロック・リーダー研修

○7月24日 鶴川就業相談

○7月30日 会長・局長合同会議

○7月31日 第4回理事会

●定期総会提出案件について

●平成7年度事業報告

●平成7年度一般会計決算報告

●理事の選出について(1名)

●シルバー人材センター連合加入決議について

○8月1日 堺地区就業相談
○8月1日 シルバーカレッジ(障子)開講

○8月5日 営繕グループ研修

○8月6日 選考委員会

○8月6日 安全管理委員会
○8月7日 顧問・相談役

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|---|
| ○8月11日 | 参与連絡会
シルバーカーレツ
ジ(障子)閉講 | ○9月20日 | 安全巡回 |
| ○8月12日 | 事業部会 | ○9月24日 | 関東ブロック役員研修(秩父) |
| ○8月13日 | 広報部会・総務部会 | ○9月25日 | 鶴川就業相談 |
| ○8月15日 | 配分金支払い | ○9月27日 | 定期総会 |
| ○8月17日 | 忠生地区理事・班長合同連絡会 | ○9月29日 | シルバーカーレツ
ジ(ハイキング) |
| ○8月19日 | 入会説明会 | ○10月1日 | 開講
堺地区就業相談 |
| ○8月19日 | 七プロ局長会議 | ○10月2日 | 植木グループ研
修 |
| ○8月20日 | 安全巡回 | ○10月6日 | 町田ゴミフェス
夕参加 |
| ○8月28日 | 鶴川就業相談 | | |
| ○8月29日 | O・A委員会 | | |
| ○8月30日 | 家事援助グループ
研修 | | |
| ○8月31日 | シルバーカーレツ
ジ(障子)閉講
(鶴川連絡所) | | |
| ○9月2日 | 堺地区就業相談 | | |
| ○9月2日 | 七プロック会員
研修 | | |
| ○9月3日 | 第5回理事会 | | |
| | 財務規程の別表
一部改正 | | |
| | 平成8年度一般会計
補正予算案 | | |
| | 定期総会役割 | | |
| | | ○9月18日 | 班長合同連絡会
入会説明会 |
| | | ○9月17日 | 事務局長会議 |
| | | ○9月13日 | 配分金支払い |
| | | ○9月12日 | 総務部会 |
| | | ○9月12日 | 財団会計指導 |
| | | ○9月10日 | 広報部会・事業部会 |
| | | ○9月9日 | 室内レク委員会 |
| | | ○9月8日 | シルバーカーレツ
ジ(障子)閉講
(鶴川連絡所) |
| | | ○9月7日 | シルバーカーレツ
ジ(垣根)開講 |
| | | ○9月6日 | 安全管理委員会 |
| | | ○9月4日 | 防災訓練 |
| | | | ●地域班長の委嘱
について |
| | | | 例について
(12月分は1月21
日に・1月分は
2月17日に変更) |
| | | | 配分金支払の特 |

地域班長委嘱について

次の地域で、班長の交代がありましたのでお知らせいたします。

- 本町田地域 (敬称略)
宮崎 三男
本町田一七五七一一〇
(24〜六八六三)
- 南成瀬地域
立野 三男
南成瀬二二二二一六
(21〜九〇三二)

“傷害事故多発”

10月1日現在で、傷害事故が9件発生しています。

会員数が増、契約件数並びに事業量が増大してきますと事故件数も多くなつてきますが、内容を見ますと、チョットした不注意や、貸与してある安全保護員を着用しないなどが多くなっているのは、残念なことでありませぬ。

安全に対する意識の欠如が大きな原因です。

センターとしての対策にも限度があつて、実効があがらないのが実態ですが、なんといつても、会員個々が、安全に対する意識をもつてくださることが最大の事故防止であります。

就業前には、安全に対する自己意識を強くもつてください。

怪我をしないための特効薬はありませんから!!

平成8年度事故発生状況一覧表

日時	発生場所	年齢	起因物	事故発生状況
6/7 8:50	つくし野2-19-28 山田宅	62	三脚	植木剪定作業を始めようと三脚に上がり、足場を安定させようと揺すったところ、三脚が滑り、後ろ向きに転倒。
6/7 6:50	森野1-10-10 早慶外語ゼミ 階段	77	階段	清掃中、足を滑らせて尻もちをつき、その弾みで恥骨下肢を骨折した。
7/4 8:00	忠生公園内	80	毛虫	清掃中、毛虫に上半身を刺された。
7/10 8:32	高ヶ坂団地入口 バス停付近	67	急いだため	就業途中、バスが来たので急いで小走りしたところ、足が絡み、転倒。両足膝を強打。湿布していたが痛みがとれず、入院となる。
7/24 8:48	本町田1833 町田三中西交差点 内	65	自転車の信号無視	横断しようとしたところ、赤信号で入ってきた自転車と衝突。左半身打撲。左肩・頭部を強打した。
8/22 11:30	原町田 三橋宅	70	刈込鋏	脚立に刈込鋏を置いていた。降りる際に鋏に左足向こうずねを打ち、切傷。
9/5 19:30	原町田5-1-12 いずみの里	60	金属プレート	食器籠を格納しようとしたところ、籠についていた金属プレートで左手薬指を切傷した。
9/5	玉川学園8-2-14 遠藤宅前	73	無理な体勢	チラシ配布を行う際、ポストが道路側より奥まった位置にあり、上体を乗り出して無理な体勢でチラシをポストに入れようとしたため、バランスを崩し、転倒。その際、道路に手首で支え、ひねった状態で骨折した。
9/16	金森1840-83 石部宅	65	脚立	植木手入れ作業中、脚立上段部からバランスを崩し、転落。頭蓋骨骨折・脳挫傷した。

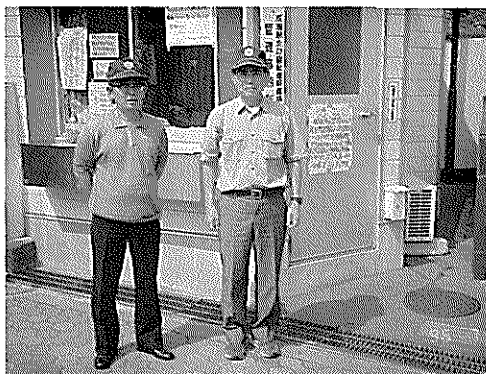
『こんにちは・みなさん』

就業現場を訪ねて！

今回は、成瀬に平成7年4月1日から成瀬地区の市民の皆さんの利便を図って市の防災課所管で開設された、「成瀬北口駐輪場」を訪ねて会員の皆さんが活躍している状況をお聞かせ願いました。

「成瀬北口駐輪場」の概況は、開設当時定期利用のみで、バイク75台、自転車は1階屋内が171台、同屋外は200台、2階屋内170台の計616台でした。丁度訪ねたときは更新手続き中で、利用者がどしどし手続きにみえて、忙しく活動されてました。会員の勤務体制は6時30分～20時30分を二交替で、8名が市民の要望と駅前美化並びに防災のため

汗を流しています。



最近では、市民の要望に応じて、スペースの少ないところを色々と工夫して、一時利用の場所を確保して、100台を限度に預かっていましたが、安全管理委員会の指導を受け75台とし、市民の便をはかっているとのこと、駅前以前みられた放置自転車の姿が消えて、会員の皆さんは喜んでおられました。

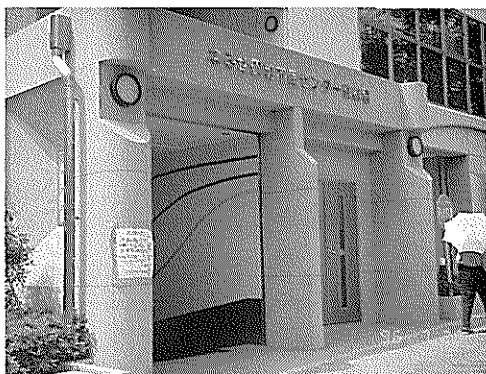
就業会員の話しによると、8時から9時の間がピークで更新時は一時利用の市民で混

み合い、整理作業に不完全の部分が出ることもあるとのことでした。

つづいて、今年7月1日に成瀬市民センターの地下に新しく放置自転車対策として駐輪場が開設されて、利用が開始となり、ここに就業されている会員の皆さんに、就業の状況を伺いました。

名称は「なるせ市民センター駐輪場」で、12名の会員が三交替制で活動されています。

ここは、定期利用のみで、収容台数は360台となっております。

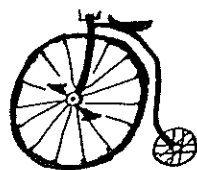


います。

現在は、開設間もないために、まだまだ収容に余裕があるようでしたが、訪問したときは、高校が夏休みのために空いているのではと思われませんでした。

この駐輪場は、夜11時にシャッターを閉めるため、北口駐輪場の会員の話しによると夜11時以降に帰宅する市民は自由に取出せる、北口駐輪場の一時利用を活用しているとのことでした。

二ヶ所の駐輪場を訪問してみましたが、就業会員の皆さんが、健康に留意され、安全にも注意してもらって、事故の無いようにと念じつつ、駐輪場を辞し帰路につきました。





室内レクリエーション

恒例の室内レクリエーションが左記により開催されます。
ご家族同伴で参加して下さい。

記

一、日時 11月16日(土)

10時から16時まで

二、会場 町田市総合体育館

(横浜線成瀬下車)

三、申し込みは

11月13日までに事務局
に申し込みを……。

◎当日は、家族を含めてお弁当を用意しますので、必ず申し込みをして下さい。

◎当日上履きも忘れずに!!

年末・年始の

事務取扱いについて

仕事納め 12月27日(金)

仕事始め 1月6日(月)

このため、1月の配分金支払日は1月21日(火)になりますのでご注意ください。

◎作業日報は1月6日又は7日までに提出して下さい。

今年も餅つきをします。

12月26日(木)の10時頃から、事務所の1階広場で餅つきをしますので、つきたてのお餅を喰べにいらっしやいせんか。



優待割引ホテルの追加

次の旅館・ホテルの優待割引が追加となりました。

会員証を提示してご利用ください。

萩本陣

萩市大字椿東三八五―八
0838(22) 5252

宮島コーラルホテル

佐伯郡大野町宮島口1―9
0829(56) 0556

求人情報

平成9年4月から、次の職種が大幅に増員の予定です。

○学校管理

○放置自転車指導員

○市営グラウンド整備

ご希望の方は事務局へ!!

編集後記

昭和56年2月に「銀齢だより」第1号が発刊されてから15年半がたち、この号が丁度100号となりました。

今号は、9月と11月の合併号としてお届けいたします。

この「銀齢だより」の歴史について、林 会長、水島理事からの投稿を載せましたので一読ください。

9月期の定期総会も無事に終了しましたが、演劇同好会による劇が、アトラクションとして上演され、第2回公演ともあって大変な好評でしたので、そのスナップ写真を載せてみました。

また、自由課題で投稿を募ったところ、6人の会員からの投稿をいただきました。ありがとうございます。楽しい室内レク参加者の募集をしています。ご応募ください。